

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第 号
------	---------

氏 名 安藤博彦


論 文 題 目


Comparison of Tissue Characteristics Between Acute Coronary Syndrome and Stable Angina Pectoris -An Integrated Backscatter Intravascular Ultrasound Analysis of Culprit and Non-Culprit Lesions-  
 (急性冠症候群および安定狭心症患者における冠動脈病変組織性状の比較：IB-IVUS を用いた責任病変と非責任病変の組織性状解析)


論文審査担当者

主 査 委 員

名古屋大学教授  
 古 森 公 浩 

名古屋大学教授  
 委 員 碓 氷 章 彦 

名古屋大学教授  
 委 員 神 谷 香 一 郎 

名古屋大学教授  
 指 導 教 授 室 原 豊 明 

## 論文審査の結果の要旨

心筋梗塞を含む急性冠症候群では、そのほとんどが冠動脈プラークの破綻を契機として発症することが分かっている。その責任病変のプラークは、薄い被膜と大きな脂質成分をもつことが特徴であることはこれまでの知見で知られているが、責任病変以外の非責任病変についての詳細はよくわかっていない。

本研究では IB-IVUS を用いて、責任病変と非責任病変のプラークの組織性状を解析した。その結果、急性冠症候群の非責任病変のプラークは安定狭心症の非責任病変のプラークと比較して、有意に脂質成分が多いことが分かった。また多変量解析によっても、急性冠症候群の非責任病変は責任病変とともに Lipid Rich Plaque の独立した予測因子であることが判明した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 急性冠症候群発症のメカニズムとして plaque rupture、plaque erosion および calcified plaque の存在が原因として知られており、なかでも plaque rupture が主要な原因と考えられる。
2. プラーク組織性状診断は現在では IVUS や OCT によって評価されているが、冠動脈内にデバイスを挿入しなければならずその侵襲性が大きな limitation となっている。将来的に、CT や MRI などを用いた低侵襲なプラーク評価法が確立されれば、急性冠症候群発症の病態理解がすすみ予防医学にも貢献できると思われる。
3. プラーク表面の線維性被膜が薄く、プラークの組織性状として脂質の含有率が高いものが不安定プラークの特徴としてあげられる。これは将来的にプラーク破綻をきたしやすく急性冠症候群発症のリスクが高いものとして認識されている。
4. 急性冠症候群の非責任病変のプラーク組織性状は、責任病変と同様に脂質成分が多いことが分かり、これは急性冠症候群では冠動脈全体に不安定プラークが進展していることが示唆された。

本研究は、急性冠症候群発症に関わる不安定プラークの病態理解に、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	安藤博彦
	主査	古森公浩	石塚章彦	神谷香一郎
試験担当者	指導教授	室原豊明		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性冠症候群のリスクファクターについて</li> <li>2. プラークの組織性状診断の将来性について</li> <li>3. 不安定プラークの病態と急性冠症候群発症の機序について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、循環器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

## 学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	安藤博彦
学 力 審 査 担 当 者	主 査	古森公浩	碓氷章彦	柳浩一郎
	指導教授	室原豊明		

(学力審査の結果の要旨)

名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。